

# オオタカ

*Accipiter gentilis* (Linnaeus)

タカ目タカ科

石川県カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー

準絶滅危惧

## 選定理由

小型から中型の鳥獣の捕食者として、丘陵帯を中心とした生態系の頂点に位置するタカで、個体数は多くない。

## 形態

全長約55cm。翼開長約1.2m。雄よりも雌が大きい。トビよりも小さいタカで、幅広く短い翼と長い尾をもつ。成鳥では、上面は暗青灰色で尾には3~4本の黒色横帯があり、眉斑は白く過眼線と頬は黒い。下面は白く、黒色の細かい横斑が一面にある。雌は全体にやや褐色みが強い。幼鳥は上面が褐色で下面は縦斑である。

## 国内分布

国内のほとんどの地域で留鳥として生息するが、繁殖が確認されているのは北海道、本州、四国である。冬期は全国で観察される。近年、個体数の増加が指摘されているが、これは観察精度の向上と平野部の人家周辺での観察例が増えているため、必ずしも個体数の増加を示すものではないとされる。

## 県内分布

1990年に能登で、1991年には加賀で初めて繁殖が確認され、1994年には海岸林でも繁殖が確認された。その後相次いで繁殖地が確認され、県内に広く分布していることが明らかになった。秋冬期には県内各地の平地から山地で観察される。近年、加賀地方では平野部での営巣が見られるなど観察例が増加しているが、逆に能登地方では営巣数が減少しており、引き続き、分布や繁殖状況などその動向を注意深く見守る必要がある。

## 生態

加賀や能登の丘陵帯で繁殖するが、繁殖ペアは多くない。アカマツに営巣する例が多いが、近年の松枯れの影響か、スギ、モミなどでの営巣もみられる。産卵期は4月から5月で、一腹卵数はふつう2~3個、抱卵日数は約35日、孵化後約40日で巣立ちする。秋期には南に渡る個体が観察される。ハト類など中型の鳥を主食にしている。

## 生息地の条件

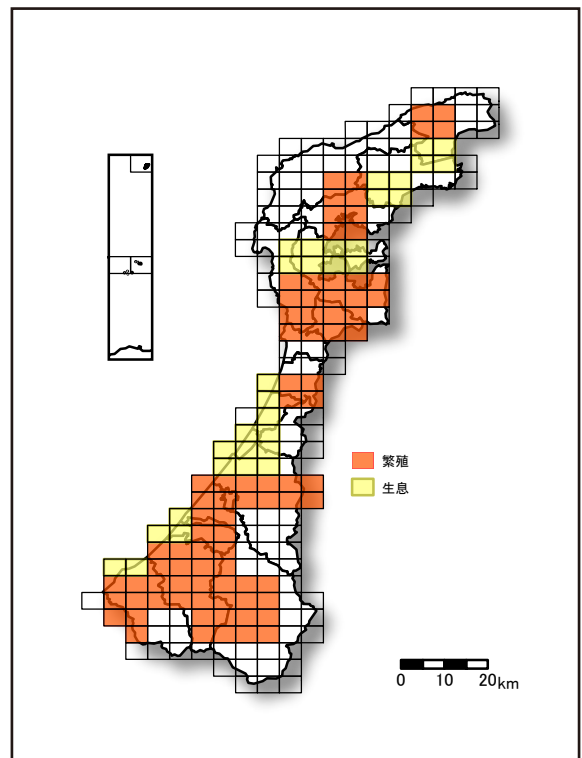
標高500m以下の、アカマツ、スギ、モミなどで営巣することが多い。海岸のクロマツ林での営巣例もある。人間活動による悪影響を受けやすく、人為的影響が少ないことが生息地の条件となる。

## 生存の危機

丘陵地、いわゆる里山に住むため、開発などの影響を受けやすく、また密猟の危機に常にさらされている。(A, B)

## 特記事項

国内希少野生動物種。



県内の分布